

基本施策 A 4 国際性を豊かにします

主管課：国際課

個別施策

- A4-1 国際交流の機会の充実を図ります
- A4-2 外国人住民が暮らしやすい環境づくりを進めます
- A4-3 留学先としての質の向上を図り、留学生の満足度を高めます

ア 施策の目的

市民が、国際交流や国際理解に積極的に取り組み、外国人住民とともに快適な環境の中で暮らしている

イ 基本施策の評価

C b 目標を一部達成しており、目的達成に向けて概ね順調に進んでいる

ウ 成果指標（「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標）

指標名	基準値 (時期)	区分	H29	H30	R1	R2	R3	
国際理解講座への 参加者数	2,030人 (26年度)	↑	目標値	2,115	2,144	2,172	2,200	2,587
			実績値	2,932	2,380	2,531	2,715	
			達成率	138.6%	111.0%	116.5%	123.4%	
在留外国人数	3,444人 (26年)	↑	目標値	3,572	3,615	3,658	3,700	3,700
			実績値	4,109	3,809	3,700	3,163	
			達成率	115.0%	105.4%	101.1%	85.5%	

エ 評価結果の妥当性

- (1) 本部会における意見を踏まえて考えると、評価結果については妥当であると判断する。
- (2) コロナ禍の中でも交流が途絶えなかった事は評価される。
- (3) コロナ禍の状況においても色々工夫し、オンラインで交流を図ったり、日本語が母語でない人にはより一層複雑であったであろう特別給付金の案内を多言語で行ったりなど、必要とされる事項を達成されていたので、全体を見るとC bは妥当だろうが、B bに限りなく近いと考える。

オ 審議会における政策評価に対する意見

なし

カ 審議会における施策推進に向けた提言

- (1) 国際交流は一時的に中止になっても、子供達の関心が高いと思うので、ぜひ続けて欲しい。
- (2) 三重県四日市、神奈川県綾瀬市では、外国人の増加によりすでに人工知能(AI)による多言語の翻訳機能を備えたタブレット端末など自動翻訳システムが、役場や小・中

学校まで導入されている。現在のシステムは、人が話し終わってから翻訳が始まるようになっているが、政府としても2025年までに発言の途中でも翻訳し始める同時通訳システムの実用化を目指し、文脈に応じた語彙選択の精度も向上させるようにすることである。本市は有名な観光資源も多く、コロナ禍のあとは外国人の来崎も増えることから、四日市や綾瀬市のように、人工知能(AI)による多言語翻訳機能システムを早速に導入すべきではないか。

- (3) 野母崎の恐竜博物館がオープンするので、子供達に人気のある恐竜をとおして、オランダとの交流の事も学んでもらいたい。
- (4) ウィシュマ・サンダマリさんの事件や現代の奴隷制とまで言われた技能実習生の相次ぐ失踪事件など、特に外国にルーツを持つ人々への人権意識のなさが、近年、特に日本の大きな課題になっていると思う。選んでもらい続けられる・誇りに思える日本、そして長崎であるために、市ができることは限られているかもしれないが、一人の人間同士として出会う地道な国際交流を重ねることが共生の土台になっていくと思う。今後もALT事業や交流、住民支援を重ねていってほしい。
- (5) 留学生を含む長崎に居住する外国人の方々が受けて嬉しかった小さな親切など、市民レベルの普段の交流をもっと知らせていくことで、より日常生活の中で外国の方々との交流が深まるのではないかと感じる。